

気候変動時代のインドネシア・イスラーム
-イスラーム法学へのアプローチをする環境論者を事例に-
Indonesian Islam in the Era of Climate Change:
A Study on Environmentalists Approaching to Islamic Jurisprudence

中鉢夏輝 (京都大学大学院)

CHUBACHI Natsuki (Kyoto University, Graduate Student)

近年のインドネシアでは、気候変動問題の深刻化を受けて、イスラームの教義を適用した環境保護活動が盛んに実践されている。本研究は、イスラーム世界の法的議論とインドネシア社会の脱炭素化という二つの文脈を軸に、その理論的・活動的中心を担うムスリム知識人にかんする調査・考察を行うことで、自然環境への取り組みにイスラームが結び付けられるメカニズムを解明しようとするものである。従来の「イスラームと環境」研究ではイスラーム的言説の特殊性が注目されてきたが、ムスリムが言説を生み出す過程は十分に議論されていなかった。本研究では各主体が言説を作り、適用する戦略性に着目しながら、その重要な説明因子である法的根拠と政治的關係に視野を広げる。

第一に、イスラーム世界全体における法的議論という文脈において、ムスリム知識人が発表してきたイスラーム法に基づく勧告や説教、著作物に見られる言説を分析する。それらの言説を構成するインドネシアやアラブ世界、英語圏の諸概念を批評的に捉えることで、ムスリム知識人たちが気候変動に対して、どのような問題と解決を念頭に置いているのか、その環境観のあり方を明らかにする。第二に、インドネシア社会の脱炭素化という文脈では、政府や企業が気候変動対策を進める社会状況のなかでムスリム知識人がどのような環境実践を進めているのか、彼らの動態を分析する。特に、モスクやプサントレンのような宗教関連施設での環境教育やグリーン化活動に着目する。これを通じて、気候変動問題に対する人間・自然・神の三者関係を基調とした環境観の役割を明らかにする。

本発表は、上記研究にかんする博士論文執筆に向けた報告である。本発表では、まず研究の目的や計画について紹介する。そして、イスラーム的な環境論者のなかでもイスラーム法学や法学者へのアプローチを行う人物として Fachruddin Mangunjaya などを扱いながら、その環境観について説明していく。